



# 大 報 おおだて

11月16日号 (No. 310)

◆ 編集と発行 — 大館市役所  
(電話)49-3111  
◆ 発行年月日 — 昭和56年11月16日  
◆ 発行日 — 毎月1・16日

広報紙は、行政協力員を通じて全世帯に配布しています。届かなかったり、配布が遅いときは、総務課秘書広報係へご連絡ください。



—大館の未来を担う子どもたち—

## 潤いのある郷土を 市民とともに

—市制30周年にあたって—



大館市長  
畠山健治郎

大館市制施行三十周年を迎えまして、市民の皆さんとともに喜びを分かちあいたいと思います。

昭和二十六年四月一日、大館町と釈迦内村が解体合併し、人口三万五十六人の日本一小さな市として大館市が誕生しました。以来、昭和三十年長木、上川沿、下川沿、二井田、真中の五村と十二所町、昭和四十二年の花矢町とそれぞれ編入合併をし、面積四百一十平方キロメートル、人口七万三千人の東北第一の都市として、政治、経済、産業、観光、そして教育、文化の中心として発展してきました。

この三十年の歩みを総括してみますと、四度にわたる大火のための困難な財政事情のもとで、充実した市民生活、ゆとりと潤いのある地域社会の建設のため、市民一人ひとりが努力しつづけた歳月と言えるのではないのでしょうか。大館は大火のまち、として全国に知られています。決してありがたいイメージとはいえません。しかし、この苛酷な試練から何度も立ちあがった市民の勇氣と力、復興の歴史は全国に誇ることもできるものひとつと考えます。

近年、市民が真に幸福な暮らしを営む社会の実現に、手離しの家観論は許されない時代であることは承知のとおりです。戦後の社会情勢はGNP(国民総生産)に主眼を置き、急速な経済成長をみました。そして国民一人ひとりの生活も物質的には非常に恵まれたことも確かです。しかし一方ではそうした社会の副産物として、異常なまでの競争心理や気ぜわしさが人々の考え方、価値観に大きな変化をもたらす本采持っていたはずの人々の豊かな感性を鈍感させていることも否めません。こうしたことから本市は今年三月に市の基本理念を「自然と人間の調和の中で、健康で豊かな生活環境の創造」に置き、「健康で明るい福祉社会の図られている都市」など五本の柱を掲げ、実現に向けてまい進しています。

文化の殿堂「市民文化会館」も来年二月には完成します。身障者福祉センターや地域活動センター、長根山運動公園などの施設の整備も国や県のご協力のもとに充実してきました。これからはその施設をいかに有効に活用するかが問われる時期にきています。

私たちは今、かつて先人の経験したものと異なった厳しい試練に直面していますが、この試練を乗り越えて明日の大館市の進むべき道を切り開いて行くことこそ、現代に生きるものの義務であると思います。今日まで市勢進展のためにご尽力いただきました先輩各位、市民の皆さんに重ねて深い敬意を表わすとともに更に融和と団結の意識を高め、七万三千市民が一体となって立ち上る潤いのある郷土をつくるために、今後もお二層のご支援とご協力を隔りますようお願い申し上げます。